

ユビキタス



「ユビキタス」の語をご存じの方は、随分とナウイ方と尊敬申し上げます。私は「俄バソコンおはあちゃん」ということで、何のことも全然知りませんでした。

インターネットで検索すると、「ひとごとでお答え」に、「いつでも、どこでも、誰でも」インターネットとネットワークを利用できる環境のこと」とありました。語源はラテン語で「いたるところにある」なのだそうですね。

一カ月前「朝河貫一研究会」のために上京することになって、F社の友人に連絡した所、彼は有楽町の国際フォーラム会場で「ユビキタス」の展示会をすること、午後は会場にいるとの連絡があ

りました。私は午後一時過ぎには行けるとメールしました。

羽田に十一時に着いたのですが、荷物が邪魔なので一旦東京駅のコインロッカーに入れて、有楽町に戻りました。

久しぶりの有楽町下車で、ここも私の記憶とは大きく変わっていました。駅に沿ってあった天井の低いところ百貨店で、何回か特売品の山をあさったことがありましたが、すっかり姿は変わってその先にモダンなフォーラム会場が建っていました。

会場の受付には、アタッシユケースを下げたネクタイ姿のビジネスマンが入場券を片手に列を作っていました。私は直接受付の人に本部長に來訪を告げてほしいと頼みました。すぐに秘書の女性が現れて、彼は今接客中なので彼女がしばらく案内をして下さるとのこと、私は彼女の後に続き中に入りました。

まずプラスチックのタグを首にかけるよう勧められ、会場に入りました。中には大きなパネルが何枚も掛かっていて、幾つかのブロックが設けられ、それぞれマネキン嬢が色々な利用面を説明していました。

まず女性向きの買物コーナーです。マネキンの手にしたカードには、様々な個人情報と本人識別のための掌の静脈の情報が記憶させられてあり、入店の際にカードと手をかざせば、チェック済になり、店内でカードに品物を入れれば、それも自動的に記憶され、出ると集計されて、お財布を出すことなく銀行から引き落とされるということです。私のように財布に現金やお店のカードを入れる忘れの粗忽物には便利なことに違いありません。

次のコーナーは病院での活用で、受付や薬の情報がおオンライン化されて、半日がかりの通院の時間が大幅に縮小されそうです。何よりと思われたのが、足首に巻かれた帯に本人の情報が記憶され

ていて、注射や投薬の際の本人誤認が全く無くなるということ、このところの「コワイ」事件は防げるようでした。

一つのコーナーを見学し終わると、首に下げたタグカードをそれぞれに設置された読み取り機にかざし、全部を通れば抽選でパソコンも当たる景品がもらえるとのことでした。そんな説明を受けていると、彼が現れました。一時から会議が入っていて外に出なければならぬと、そそくさと休憩のコーナーに案内して「コーヒ」を取ってくれました。

一切の企画を彼が行ったのだと言ったことでした。分刻みの忙しさらしく、私は恐縮して、熱いコーヒをゆっくり飲みたいし、勝手に見学して帰るからと言って別れました。

秘書がまた現れて、出口の大きなパネルに彼が挨拶するのが写りますとささやきました。

私はぶらぶらとビジネスのコーナーに行ってみました。電話機がどう個人を認識するのか分から

ないのですが、どの部署にいてもどの電話機でも電話を取れるというのが、外に出れば自動的に携帯電話に切り替えられるし、近くに電話機があれば、それでも取れるというところで、詳しい説明までは見ませんでした。そこまで追跡されては外交も油を売る時間もなくて窮屈ではないかしらと思えました。しかし、実際は適当なところのある男社会のこと、きっとその辺も何か上手に考慮されていることでしょう。

出口の椅子に腰を下ろし、30分ほどに写し出される彼の挨拶を待ちました。大きなパネルに大写真になった彼は、白髪も増えて、やや疲れて見えましたが、温厚でつつましい表情は昔と変わっていませんでした。大学を卒業して最初のノルマが私の勤めていた会社のSEでした。

夫もシャープな彼を可愛がって来ました。今日の彼の成功は、彼の変わらぬ人柄によるものでしょう。第3回入来新能を見にきてくれて、我が家

に泊まり、翌日諏訪神社に奉納される太鼓踊りも見てお帰りでした。

来年は必ず来てくださるということ。私は景気が十分回復して、大きな広告を出してくれることを期待しています。

10月はドイツとアメリカ西海岸にタイトなスケジュールで出張とのこと。勤勉な日本人のこと、ユビキタス時代も、きっとすぐそこなのかも知れません。

